

文部科学省学習指導要領改訂の動向と音楽科をめぐる議論の整理

新山王 政和* 市江 真理子** 小出 真規子** 長岡 知里**

*音楽教育講座

**附属名古屋小学校

An Outline of the Reform of the National Curriculum Guidelines by MEXT, and Arguments Concerning Music Classes

Masakazu SHINZANO*, Mariko ICHIE**,
Makiko KOIDE** and Chisato NAGAOKA**

*Department of Music Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

**Nagoya Primary School Affiliated to Aichi University of Education, Nagoya 461-0047, Japan

1. 報告の概要

H26年度に文部科学省（以下、文科省）中央教育審議会へ諮問された「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」を受けて着手された学習指導要領（以下、指導要領）の改訂作業はH28年度内に終わり、これを受けて小学校はH32年度、中学校ではH33年度から移行する予定である。これを見据えて既に小中学校では「グローバル、ICT、アクティブ・ラーニング」の取り組みが行われているが、筆者も改訂作業に関わる文科省資料を分析し、その一部を「自己評価シートの工夫により生徒の内発的思考の活性化を目指した合唱活動の試行～キーコンピテンシー、21世紀型能力、アクティブ・ラーニングに関する文科省資料との比較考察～」⁽¹⁾で報告した。このように教育行政の動向を整理し、学校教育関係者や将来教師をめざす学生へ情報提供することは教員養成学部属する教員の責務でもあろう。よって現行指導要領の実施状況調査⁽²⁾を受けて進められている今回の改訂において何が話題になっているのか、その姿が具体化しつつある音楽科の改訂について小中学校音楽科教員が知っておくべき事項の整理に取り組んでいる。そして本報告では文科省発信の情報を構造的に読み込むことで改訂の背景を掴み、情報提供することをめざしたい。合わせてH28年8月「文科省教育課程部会教育課程特別企画部会資料」に「短時間学習」「小学校の標準授業時間数の増加」⁽³⁾の記述があることを重視し、これに対応する

一方策として、本学附属名古屋小学校が積み上げてきた「短時間活動」の成果の一部を紹介する。

2. 学習指導要領改訂の背景

2.1 学校教育に関わる現状把握と整理

文科省審議官と担当課長による講演から、特に筆者が重視する事項を抜粋して報告する。⁽⁴⁾ これらが今回の改訂作業の重要な背景であると考えている。

【改訂に向けた背景と現代的教育課題】（筆者要約）

①PISA等の調査によると、日本の子供達の学力レベルはトップレベルを回復しているにもかかわらず、依然として子供達自身の「自己肯定感」は低い。⇒自ら考えて、知識や技能を活用しながら課題を解決するアクティブ・ラーニングの導入へ。

②公立小学校の現職教員が今後大量に退職し、地域によっては正規教員の三人に一人が3年経験未満初任者になってしまう。⇒研修システムの精査精選へ。

③学校現場が抱える問題の増加と多様化⇒「チーム学校」に向けた意識改革へ。

これらは、教師に大きな負担のかかる教師主導の知識伝達型の授業だけでは、いずれ対応し切れなくなことを示唆していると言えよう。これが現代的教育課題への対処法として言及された「脱ゆとり、グローバル、ICT、アクティブ・ラーニングなどによる主体的かつ対話的で深い学び」の提示へと繋がり、「真の学力（新しい時代の資質・能力、学びの観点などと呼ば

れるもの)」を導き出しているものとする。

2.2 次期指導要領における学力観と学びの力

この審議官らによる講演では、現代的教育課題に対応すべく「先を見通すことの難しい時代において生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら自らの人生を切り拓き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てることが必要」と指摘され、これを受けた「ゆとりか詰め込みかの二項対立的な議論の終結」が「新たな学力観(3つの柱)」へ繋がっていることが分かる。⁽⁵⁾

【新たな学力観(3つの柱)】(筆者抜粋)

- ①「個別の知識・技能」: 何を知っているか、何ができるか(生きて働く知識・技能の習得)
 - ②「思考・判断・表現力」: 知っていること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる)
 - ③「人間性や学びに向かう力」: どのように関わり、よりよい人生を送るのか(学びを人生や社会に生かす)
- この「新たな学力観(3つの柱)」を具現化する方策として「新たな学びの3観点」が示されている。

【新たな学びの3観点】(筆者抜粋)

- ①何ができるようになるか: 新たな学力観(3つの柱)。社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む。
- ②何を学ぶか: 今回の改訂作業で精査精選されるもの。新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた目標・内容の見直し。
- ③どのように学ぶか: 主体的・対話的で深い学びをめざした、アクティブ・ラーニングの視点からの学習過程の改善。

そして、これらはいずれも各教科で設定された「見方・考え方」を通じて行われることとされている。補足になるが、ここで示された「新たな学力観(3つの柱)」は、S22年に公布された「学校教育法」第30条「～略～基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養う～略～」(下線筆者注)を受けたものであると考えられる。

3. 音楽科に関わる改訂作業の骨子

3.1 音楽科における「見方・考え方」

「新たな学力観(3つの柱)」と「新たな学びの3観点」を繋ぐコアの「見方・考え方」についてH28年8月「各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性」⁽⁶⁾から「音楽科の見方・考え方」を整理する。

【音楽科における「見方・考え方」】(筆者抜粋)

- ①小学校音楽科の「見方・考え方」: 音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働き

の視点で音や音楽を捉え、自己のイメージや感情、作り手の考えや人々の生活などに関わせること。

- ②中学校音楽科の「見方・考え方」: 音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音や音楽を捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関わらせること。

これまで「感性を育てる、能力を培う、情操を養う」等の抽象的な目標だったものが、より具体的に「○○によって△△と□□に関らせる」と示されることで学習活動のイメージが明確になり、児童生徒の活動やその方向性も分かりやすくなると思われる。

3.2 音楽科における「新たな学力観(3つの柱)」

次にH28年2月「小・中・高を通じ、音楽科、芸術科(音楽)において育成すべき資質・能力の整理(検討のたたき台)」⁽⁷⁾から、音楽科における「新たな学力観(3つの柱)」について整理する。

3.2.1 音楽科における「個別の知識・技能」(何を知っているか、何ができるか)

①小学校音楽科

- ・ 音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きを理解したり、音楽的な特徴や構造と曲想との関わりについて理解したりすること、など。
- ・ 聴唱や聴奏、視唱や視奏、声や音を合わせるなど、自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたりするために必要な技能や、自分の思いや意図を音楽で表現するために必要な技能、など

②中学校音楽科

- ・ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、楽曲における働きと関わらせて理解したり、楽曲の背景や楽曲の構造と、曲想との関わり及びその多様性について理解したりすること。
- ・ 自分の思いや意図を生かして音楽表現をするために必要な技能、など。

3.2.2 音楽科における「思考力・判断力・表現力」(知っていること・できることをどう使うか)

①小学校音楽科

- ・ 音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じとりながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもつ、音楽表現の創造に関する能力、など。(下線筆者注)

- ・ 音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、知識を得たり活用したりして、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え味わ

う、音楽のよさなどを見いだす能力、など。(下線筆者注)

②中学校音楽科

- ・音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもつ、音楽表現の創造に関する能力、など。(下線筆者注)
- ・音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知識を得たり活用したりして、音楽を自分なりに解釈したり自分にとっての価値を考えたりしたことを基に、根拠をもって批評するなどして、音楽文化に対する理解を深め、よさや美しさを味わう、音楽の意味や価値の創造に関する能力、など。(下線筆者注)

3.2.3 音楽科における「人間性や学びに向かう力」(どのように関わり、よりよい人生を送るのか)

①小学校音楽科

- ・協働して音楽活動する喜び
- ・音楽への関心・意欲・態度
- ・感性
- ・音楽を愛好する心情
- ・我が国や諸外国の音楽に親しみ、それらを大切にしようとする態度
- ・生活の中の様々な音や音楽への関心
- ・音楽経験を生活に生かし、生活を明るく潤いのあるものにする態度
- ・情操

②中学校音楽

- ・協働して音楽活動する喜び
- ・音楽への関心・意欲・態度
- ・感性
- ・音楽を愛好する心情
- ・我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、諸外国の音楽文化を尊重する態度
- ・音環境への関心
- ・音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度
- ・情操

これらの「新たな学力観(3つの柱)」を鑑みると、これまで最も優れた目標として設定されていた「感性、情操、態度」などが、順次性や上位下位の概念を持たない同等のものとして位置付けられ、「身に付けるべき知識や技能」や「活用するための知識や能力」と並び置かれていることが大きな変更点であろう。

3.3 各学校段階において育てる児童生徒の姿

H28年2月の教育課程部会芸術WG「豊かな情操の

育成を目指した小・中・高等学校修了時の児童生徒の姿」から、育てるべき児童生徒の姿を整理する。⁽⁸⁾

①小学校音楽科において育てる児童の姿

- ・感性や音楽を愛好する心情が育っている。
- ・音楽活動の基礎的な能力を働かせて、表現したり鑑賞したりすることができる。

【評価の例】音楽を形づくっている要素を聴き取り感じ取りながら、こう表したいという思いや意図をもって表現したり、楽曲や演奏のよさを考え、味わって聴いたりすることができる。音や言葉によるコミュニケーションを図りながら、自分にとって価値のある創造的な音楽活動をすることができる。

- ・生活の中の音や音楽や、我が国や諸外国の音楽に親しみ、それらを大切にしている。

【評価の例】生活の中の様々な音や音楽の特徴に気付くことができる。我が国や郷土の音楽及び諸外国の音楽など、いろいろな種類の音楽に関心をもち、そのよさを味わうことができる。世代や地域を超えて親しまれている日本のうたに親しみ、曲にふさわしい歌い方で歌うことができる。

②中学校音楽科において育てる生徒の姿

- ・豊かな感性や音楽を愛好する心情が育っている。
- ・音楽活動の基礎的な能力を働かせて、豊かに表現したり鑑賞したりすることができる。

【評価の例】音楽を形づくっている要素の知覚と感受の関連を図り、音楽のよさや美しさなどについて自分の考えをもちながら、音楽表現を工夫したり、自分にとっての価値を明らかにして味わって聴いたりすることができる。他者と音や言葉による交流を通して考えを広げたり深めたりして、自分にとっての新たな価値を創造することができる。

- ・生活の中の音や音楽の働きや、音楽文化について理解し、尊重している。

【評価の例】身の回りの音や音楽に関心をもち、音環境に対する意識をもっている。我が国や郷土の伝統音楽を含む、世界の様々な音楽それぞれがもつよさや美しさを味わい、音楽の多様性を理解することができる。我が国で長く歌い継がれている歌曲のよさを感じ取りながら歌うことができる。

以上のように、小学校と中学校の学びを終えた時点で理想とする児童生徒の姿が明確に想定されている。これを努力目標として、今後各学校においてカリキュラムを整えていくことが求められるであろう。

3.4 音楽科における学習プロセス

これまで、改訂作業において議論されている「新たな学力観(3つの柱) = 教えること」「学びの3観点 = 教え方」を繋ぐ「見方・考え方」「どのような児童生徒に育てるのか(児童生徒の姿)」等について関連文書を読み解く作業を進めてきたが、本節では実際に教える

場面である学習プロセスについて筆者の視点から整理してみる。H28年2月「音楽科における学習プロセス」のイメージ図を筆者が文字情報へ置き換えて必要な部分を要約抜粋し、「A表現」と「B鑑賞」の2分野を並列することで、その骨子を掴んでみたい。

①学習の目標

【A表現】主体的、創造的に音楽表現すること。

【B鑑賞】主体的・創造的に鑑賞すること。

②主な活動

【A表現】主体的・創造的に音楽表現する。

【B鑑賞】主体的・創造的に鑑賞する。

③具体的な活動

【A表現の具体的な活動】

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を聴き取ること／知覚すること。

【B鑑賞の具体的な活動】

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連が生み出すよさや面白さ、特質や雰囲気などを感じ取ること／感受すること。

④活動の中で行われていること

「言葉や体の動きなどで表す・比較する・関連付ける」⇒「認識し、音楽の一体感を味わったり、要素の働きを理解したり、他者と共有・共感したりする」

⑤活動の結果として身に付くこと

【A表現で身に付けること】（下線筆者注）

音楽活動を通して、音楽的な特徴と、音楽によって喚起されるイメージや感情、楽曲の背景などとの関わりについて考え、表したい音楽表現を見通しをもって協働的に学習する。

【B鑑賞で身に付けること】（下線筆者注）

音楽活動を通して、音楽的な特徴と、音楽によって喚起されるイメージや感情、楽曲の背景などとの関わりについて考え、音楽のよさや美しさなどを見通しをもって協働的に学習する。

⑥スパイラルに積み上げていくこと

【A表現で積み上げていくこと】

「思いや意図を生かした音楽表現に必要な技能を習得する」⇔「試行錯誤しながら、どのような音楽で表現するかについて思いや意図をもつ」⇔「思いや意図を生かして音楽表現をする」

【B鑑賞で積み上げていくこと】

「言葉で説明したり批評したりするなどしながら、楽器の特徴や演奏のよさなどを考えたり、音楽を解釈したり、価値を考えたりする」⇔「良さや美しさなどを味わって聴く」

⑦【A表現】と【B鑑賞】の共通の目標

知識（技能）を関連付けたり組み合わせたりして、理解したり使ったりすること。

3.5 アクティブ・ラーニングについて

アクティブ・ラーニングについて改訂作業に伴い具体的な示唆が行われているので、平成27年8月「論点整理」から筆者が重視する部分を抜粋する。⁽⁹⁾

①習得・活用・探求という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。～略～教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。～略～

②他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広め深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。～略～言語活動の充実も、引き続き重要である。～略～

③子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。～略～学習活動を自ら振り返り意味付けしたり、獲得された知識・技能や育成された資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。～略～

また「教育新聞8/10」の「教育課程課長に聞く」⁽¹⁰⁾には次のような注目すべき言及がある。（筆者抜粋）
「単元のすべてをアクティブ・ラーニングで指導するのではない。～略～知識が不十分であればまずは知識の習得を図っていき次の展開にもっていく授業デザインが必要だ。～略～」

これらを基にして、次章では授業場面を想定しながら筆者独自の視点で指導事項の整理を試みる。

4. A表現領域の私案作成の試み

これまで整理してきた点を鑑みて筆者の視点から指導要領の各項目で扱う事項について私案作成を試みている。本報告では紙幅の都合により議論になるとと思われる「思考・判断・表現」の部分のみ報告する。

4.1 第1・2学年「表現領域」の筆者私案

①歌唱分野の「思考・判断・表現」で扱う事項

- ・ 範唱を聴いて歌う際に必要な音や音楽を形づくる要素を考えることができる
- ・ 階名を意識しながら歌うことについて考えることができる
- ・ 歌詞の表す情景や気持ちにふさわしい歌い方を考えることができる
- ・ 感じ取った情景や想像した気分がふさわしい歌い方を考えることができる
- ・ 楽曲に対して持つ思いや意図について考えることができる
- ・ 歌唱時の声の出し方や言葉の発音の大切さについて考えることができる

- ・他者の歌声を聴きながら声を合わせて歌うことについて考えることができる
- ・伴奏を聴きながら声を合わせて歌うことについて考えることができる
- ②器楽分野の「思考・判断・表現」で扱う事項
 - ・範奏を聴いて演奏する際に必要な音や音楽を形づくる要素を考えることができる
 - ・リズムを意識ながら演奏することについて考えることができる
 - ・感じ取った楽曲の気分にあふさわしい演奏の方法を考えることができる
 - ・楽曲に対して持つ思いや意図について考えることができる
 - ・身近な楽器やその音色、基本的な演奏方法の大切さについて考えることができる
 - ・リズムや旋律の大切さについて考えることができる
 - ・他者の音を聴きながら音を合わせて演奏することについて考えることができる
 - ・伴奏を聴きながら音を合わせて演奏することについて考えることができる

4.2 第3・4学年「表現領域」の筆者私案

- ①歌唱分野の「思考・判断・表現」で扱う事項
 - ・範唱を聴いて歌うために必要な音や音楽を形づくる要素を吟味することができる
 - ・ハ長調の楽譜を正しく読むことについて思考を伴って試行することができる
 - ・歌詞の意味や歌詞が表そうとする内容にあふさわしい歌い方を吟味することができる
 - ・曲想の意味や曲想による雰囲気の違いを表現する歌い方を吟味することができる
 - ・楽曲に対して持つ思いや意図について思考を伴って試行することができる
 - ・基本的な呼吸法や言葉の発音の仕方について思考を伴って試行することができる
 - ・基本的な自然で無理の無い発声法について思考を伴って試行することができる
 - ・他者の歌声や副次的な旋律を聴きながら歌う方法を吟味することができる
 - ・伴奏に合わせて歌う際に必要な音や音楽を形づくる要素を吟味することができる
 - ・声を合わせて歌う際に必要な音や音楽を形づくる要素を吟味することができる
- ②器楽分野の「思考・判断・表現」で扱う事項
 - ・範奏を聴いて演奏するために必要な音や音楽を形づくる要素を吟味することができる
 - ・ハ長調の楽譜を正しく読むことについて思考を伴って試行することができる
 - ・曲想の意味や曲想による雰囲気の違いを表現する演奏の方法を吟味することができる

- ・楽曲に対して持つ思いや意図について思考を伴って試行することができる
- ・音色に気を付けて楽器を演奏する方法について思考を伴って試行することができる
- ・他者の音や副次的な旋律を聴きながら演奏する方法を吟味することができる
- ・伴奏に合わせて演奏する際に必要な音や音楽を形づくる要素を吟味することができる
- ・音を合わせて演奏する際に必要な音や音楽を形づくる要素を吟味することができる

4.3 第5・6学年「表現領域」の筆者私案

- ①歌唱分野の「思考・判断・表現」で扱う事項
 - ・範唱を聴いて歌うために必要な音や音楽を形づくる要素を吟味し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・ハ長調及びイ短調の楽譜を正しく読むことについて思考を伴って試行し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・歌詞の意味や歌詞が表そうとする内容にあふさわしい歌い方を吟味し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・曲想の意味や曲想による雰囲気の違いを表現する歌い方を吟味し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・楽曲に対して持つ思いや意図について思考を伴って試行し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・呼吸法や言葉の発音の仕方、及び無理の無い響きのある発声について思考を伴って試行し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・各声部や全体の響きを聴きながら適切に声を合わせて歌う方法を吟味し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・伴奏を聴きながら適切に声を合わせて歌う方法を吟味し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・他者の声を聴きながら適切に声を合わせて歌う方法を吟味し必要な改善策や術を他者と共有できる
- ②器楽分野の「思考・判断・表現」で扱う事項
 - ・範奏を聴いて歌うために必要な音や音楽を形づくる要素を吟味し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・ハ長調及びイ短調の楽譜を正しく読むことについて思考を伴って試行し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・曲想の意味や曲想による雰囲気の違いを表現する演奏方法を吟味し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・楽曲に対して持つ思いや意図について思考を伴って試行し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・楽器の特徴を生かした演奏方法について思考を伴って試行し必要な改善策や術を他者と共有できる
 - ・各声部や全体の響きを聴きながら適切に音を合わせて演奏する方法を吟味し必要な改善策や術を他者と共有できる

共有できる

- ・ 伴奏を聴きながら適切に音を合わせて演奏する方法を吟味し必要な改善策や術を他者と共有できる
- ・ 他者の音を聴きながら適切に音を合わせて演奏する方法を吟味し必要な改善策や術を他者と共有できる

5. 短時間学習に関わる議論

5.1 改訂案における小学校授業時数

本来「短時間学習」とは、授業外で補行的に行うものや、授業内の一部を割いて一定期間継続して行う反復活動のことを示す。しかしH28年8月「文科省教育課程部会教育課程特別企画部会資料」の「小学校の標準授業時間数」⁽¹¹⁾では、中学年以上で年間授業枠を超えた時数が示されていることから、今後この短時間学習が授業時数を補う重要な位置付けになる。

- ・ 3年生：現行945時間⇒改定案980時間（35増）
- ・ 4年生：現行980時間⇒改定案1015時間（35増）
- ・ 5年生：現行980時間⇒改定案1015時間（35増）
- ・ 6年生：現行980時間⇒改定案1015時間（35増）

総授業数の増加は外国語活動の影響であるが、増加分を短時間学習も含む弾力的な運用によって賄うこととされている。しかし後述する短時間学習への言及を目にすると、他教科への齎寄せを想定範囲内とする含意を感じざるを得ない。よって次節では短時間学習に対する文科省のスタンスにも目を向けてみたい。

5.2 「短時間学習」に関わる資料の整理

H28年8月付の同じ文書では、短時間学習について特に項目を割いて次のように説明している。⁽¹²⁾

「～略～小学校高学年において年間35単位時間増となる時数を確保するためには、ICT等も活用しながら10～15分程度の短い時間を単位として繰り返し教科指導を行う短時間学習（帯学習、モジュール学習。以下「短時間学習」という）を含めた柔軟なカリキュラムの設定～略～」という記述がある。

ちなみにこの短時間学習とは、既に現行の指導要領「総則の解説（小学校）」及び「解説本文（中学校）」に運用に関する記述があり、これによると一定の条件下で実施されたものは当該教科の年間授業時数に含めることが可能とされている。⁽¹³⁾よって授業外で短時間に行われているクラス合唱等の音楽活動等も、将来的には各学校の判断により授業時数に組み込まれてしまう危険性を否定することはできない。

5.3 短時間音楽学習による試案作成の試み

これまで多くの学校で実施されてきた短時間学習を仮に授業に準ずるものと措定し、授業の一環として整えていく場合を想定してみたい。このような短時間学習の授業への組み込みは、いずれ重要な課題の一つに

なるであろう。またそこへ至る過渡期では、限られた授業時数の中で効率よく「音楽に関わる知識・技能」を習得させる一方策として極めて有効である。よって本学附属名古屋小学校の市江真理子・小出真規子・長岡知里（50音順）の音楽科教諭によって積み上げられてきた「モジュール学習計画」を次頁以降で紹介する。なお実際には、この学習計画と共に「マトリックス（評価表）」も作成した上で実践されているのだが、紙幅の関係でそれらは別の機会に紹介したい。

【参考引用文献】

- (1) 新山王政和・蕃洋一郎「自己評価シートの工夫により生徒の内発的思考の活性化を目指した合唱活動の試行～キーコンピテンシー、21世紀型能力、アクティブラーニングに関する文科省資料との比較考察～」、愛知教育大学研究報告第65輯、2016
- (2) 国立教育政策研究所「小学校学習指導要領実施状況調査：結果のポイント」2015。並びに「同調査：教科別分析と改善点（音楽）」2015。
- (3) 平成28年8月1日「教育課程部会教育課程企画特別部会資料3-1」、「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）」より「小学校の標準授業時数について」
- (4) 前川喜平（文部科学省審議官・現事務次官）「グローバル教育の推進に対応した教員養成教育」。並びに塩見みづ枝（文部科学省高等教育局大学振興課長）「大学教育の質的転換と教員養成への期待～高大接続システム改革の動向を踏まえて～」、協同出版セミナー in 京都「学校教育改革の動向を見据えた今後の教育養成教育の在り方」、ウェスティン京ホテル京都、2015.12.5
- (5) 前掲書 (3)「総論」
- (6) 平成28年8月1日「教育課程部会教育課程企画特別部会資料3-2」、「各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性」
- (7) 平成28年2月23日「教育課程部会芸術WG資料2」、「小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）」
- (8) 前掲書 (7)「豊かな情操の育成を目指した小・中・高等学校修了時の児童生徒の姿～音楽科、芸術科（音楽）で育成すべき資質・能力～（検討のたたき台）」
- (9) 平成27年8月26日「教育課程企画特別部会論点整理」、「指導方法の不断の見直し」
- (10) 教育新聞2016.8.10「合田教育課程課長に聞く」、https://www.kyobun.co.jp/news/20160812_01/
- (11) 前掲書 (3)「小学校の標準授業時数について」
- (12) 前掲書 (3)「短時間学習等の活用など、柔軟なカリキュラム設定に関する考え方」
- (13) 中学校学習指導要領「総則（本文）」において次のように規定されている。「10分程度の短い時間を単位として特定の教科の指導を行う場合において、当該教科を担当する教師がその指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科の年間授業数に含めることができる」

(2016年8月22日受理)

《第1学年 モジュール学習年間計画》

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
題材名 (時数)	あつまれ！おんがくなかま (3)	おんがくにあわせて (8)	リズムとなかよし (7)	こんにちはけんぼんハーモニカ(1)	にっぽんのうた みんなのうた (2)	どれみとなかよし(1) (3)	こんにちはけんぼんハーモニカ(2) (6)	どれみとなかよし(2) (2)	いいおとみつけて (3)	おとでよびかけっこ (3)	ようすをおんがくで (7)	みんなでつくろうお別れ音楽会 (16)	ききあってあわせて (6)
題材の目標	拍の流れや曲の気分を感じ取り、体を動かしながら楽しく歌うことができるようになる。	拍の流れや速度から、楽曲の気分の違いを感じ取り、歌ったり聴いたりすることができるようにする。	拍の流れや反復するリズムを感じ取り、簡単なリズムをつくらせたり歌ったりすることができるようにする。	音色の面白さから鍵盤ハーモニカを演奏することに興味をもち、簡単なリズムを演奏することができるようにする。	拍の流れやフレーズから、楽曲の気分を感じ取り、歌詞の表す情景に合った歌い方を工夫して歌うことができるようになる。	旋律から、階名と音の高さの関係を感知取り、旋律に気をつけて聴いたり階名で唱えたりすることができるようにする。	旋律 問いと答えの仕組みから、鍵盤ハーモニカを演奏することの面白さを感じ取り、簡単な旋律を演奏することができるようにする。	旋律やフレーズから、楽曲の盛り上がる音の響きの面白さを感じ取り、歌詞や階名で歌うことができるようになる。	音色や強弱から、身近な楽器で出せる音の響きの面白さを感じ取り、音の出し方を工夫してお気に入りの音を見付けることができるようになる。	問いと答えの仕組みや音色、強弱、リズムから、楽曲や演奏の様子を表現したり聴いたりすることができるようにする。	音色や速度から、楽曲の気分や様子を表現したり聴いたりすることができるようにする。	拍の流れによって体全体で音楽を感じ取り、情景を思い浮かべながら、自分の歌声に気を付けて歌うことができるようになる。	拍の流れや問いと答えの仕組みから、リズムや旋律の掛け合いの面白さを感じ取り、互いの歌声や伴奏を聴きながら、声を合わせて歌うことができるようになる。
モジュール学習で扱う要素や仕組み	旋律 リズム	速度 拍の流れ	リズム 速度 拍の流れ 反復	音色 リズム 速度	フレーズ 拍の流れ	旋律	旋律 問いと答え	旋律 フレーズ	音色 強弱	音色 リズム 強弱 問いと答え	音色 強弱 速度 拍の流れ	リズム 強弱 拍の流れ	拍の流れ 問いと答え
モジュール学習	音楽遊び 「ぼすごっこ」 ・楽曲の気分を感じ取りながらの身体表現と斉唱	音楽遊び 「おもいのしり」 ・楽曲の気分を感じ取りながらの身体表現と斉唱	音楽遊び 「おもいのしり」 「おちやり」 「なべなべ」 ・拍の流れによって、さまざまな速度での身体表現やリズム打ち	音楽遊び 「おもいのしり」 「おちやり」 「なべなべ」 ・拍の流れによって、さまざまな速度での身体表現やリズム打ち	音楽遊び 「おもいのしり」 「おちやり」 「なべなべ」 ・拍の流れによって、さまざまな速度での身体表現やリズム打ち	音楽遊び 「おもいのしり」 「おちやり」 「なべなべ」 ・拍の流れによって、さまざまな速度での身体表現やリズム打ち	音楽遊び 「おもいのしり」 「おちやり」 「なべなべ」 ・拍の流れによって、さまざまな速度での身体表現やリズム打ち						
歌づくり	「さんぽ」 ・楽曲の気分を感じ取って身体表現しながらの斉唱	「さんぽ」 ・楽曲の気分を感じ取って身体表現しながらの斉唱	「わははたいそう」 ・姿勢の確認 ・口形を意識した斉唱	「わははたいそう」 ・姿勢の確認 ・口形を意識した斉唱	「わははたいそう」 ・姿勢の確認 ・口形を意識した斉唱	「わははたいそう」 ・姿勢の確認 ・口形を意識した斉唱	「わははたいそう」 ・姿勢の確認 ・口形を意識した斉唱	「わははたいそう」 ・姿勢の確認 ・口形を意識した斉唱	「どんなゆめ」 「アイアイ」 ・音の高さを意識した斉唱 ・互いの歌声を聴くことを意識した交互唱	「どんなゆめ」 「アイアイ」 ・音の高さを意識した斉唱 ・互いの歌声を聴くことを意識した交互唱	「どんなゆめ」 「アイアイ」 ・音の高さを意識した斉唱 ・互いの歌声を聴くことを意識した交互唱	「どんなゆめ」 「アイアイ」 ・音の高さを意識した斉唱 ・互いの歌声を聴くことを意識した交互唱	「どんなゆめ」 「アイアイ」 ・音の高さを意識した斉唱 ・互いの歌声を聴くことを意識した交互唱

《第2学年 モジュール学習年間計画》

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
題材名 (時数)	音楽に合わせて (5)	歌でよびかけっこ (4)	はくの流れとリズム (6)	楽器でドレミ (7)	歌うの大きさ (4)	いい音みつけて (5)	にっぽんのうた みんなのうた(1) (2)	おまつりの音楽 (5)	ようすを音楽で (8)	みんなでつくろうお別れ音楽会 (16)	みんなで合わせて (5)	にっぽんのうた みんなのうた(2) (1)
題材の目標	拍の流れや強弱の違いから、楽曲の気分を感じ取り、様子を想像しながら歌ったり聴いたりすることができるようにする。	問いと答えの仕組みや強弱の変化から、呼ぶ掛け合いの面白さを感じ取り、互いの歌声を聴き合い、声を合わせて表現することができるようにする。	拍の流れ、リズム速度や問いと答えの仕組みから、楽曲の特徴を感じ取り、聴いたり表現したりすることができるようにする。	旋律やフレーズから、楽曲の特徴を感じ取り、階名に親しみながら、簡単な旋律を演奏したり歌ったりすることができるようにする。	音色やリズムから、楽曲の気分を感じ取り、自分の歌や楽器の音色、リズムから、楽曲の気分を感じ取って聴いたり表現したりすることができるようにする。	身の回りの音や楽曲の気分に関心を持ち、その音の特徴や楽器の音色、リズムから、楽曲の気分を感じ取って聴いたり表現したりすることができるようにする。	音色やフレーズから、楽曲の気分を感じ取り、歌詞の表す情景を想像しながら、気持ち込めて歌うことができるようになる。	お祭りの音楽のリズムや拍の流れから、楽曲の気分を感じ取って聴いたり表現したりすることができるようにする。	音色、反復の仕組みや速度から、楽曲の表す様子の変化を感じ取り、表現したりすることができるようにする。	音色、反復の仕組みや速度から、楽曲の表す様子の変化を感じ取って聴いたり表現したりすることができるようにする。	リズムや拍の流れから、楽曲の特徴を感じ取り、声や音を合わせて表現したり聴いたりすることができるようにする。	旋律の特徴から、楽曲の気分や気分を感じ取り、楽曲の情景に合った歌い方ができるようにする。
モジュール学習で扱う要素や仕組み	強弱 拍の流れ	強弱 問いと答え	リズム 速度 拍の流れ 問いと答え	旋律 フレーズ	音色 リズム	音色 リズム	音色 フレーズ	リズム 拍の流れ	音色 速度 反復	リズム 強弱 拍の流れ	リズム 拍の流れ	旋律
モジュール学習	音楽遊び リズム打ち ・さまざまな強弱で打つ ・さまざまな気分で打つ	音楽遊び リズム打ち ・呼びかけるように交互に打つ	音楽遊び リズムリレー ・拍の流れにのって打つ	音楽遊び 鍵盤ハーモニカ 演奏 ・ドレミファンを使って	音楽遊び リズム打ち ・手拍子、足踏み、ひざ打ちを入れて打つ	音楽遊び リズム打ち ・さまざまな楽器を使って打つ	音楽遊び リズム打ち ・さまざまな楽器を使って打つ	音楽遊び リズム打ち ・左右の手で交互に打つ ・かけ声を入れて打つ	音楽遊び リズム打ち ・強弱を変えて反復して打つ ・さまざまな速度で打つ	音楽遊び リズム打ち ・強弱を変えて反復して打つ ・さまざまな速度で打つ	音楽遊び リズム打ち ・友達と手合わせして打つ ・3拍子、4拍子で打つ	音楽遊び リズム打ち ・友達と手合わせして打つ ・3拍子、4拍子で打つ
歌づくり	「校歌」 ・姿勢と口形の確認 ・音の高さを意識した斉唱	「ラララ歌おう」 ・互いの歌声を聴くことを意識した交互唱	「夏だ！」 ・拍の流れを感じ取った交互唱	「ねこだって サッカー」 ・楽曲の気分を感じ取りながら、手拍子を入れた斉唱	「ねこだって サッカー」 ・楽曲の気分を感じ取りながら、手拍子を入れた斉唱	「ねこだって サッカー」 ・楽曲の気分を感じ取りながら、手拍子を入れた斉唱	「ねこだって サッカー」 ・楽曲の気分を感じ取りながら、手拍子を入れた斉唱	「タヤけ こやけ」 ・フレーズを意識した斉唱 ・高音の発声を意識して「マ」で歌う	「タヤけ こやけ」 ・フレーズを意識した斉唱 ・高音の発声を意識して「マ」で歌う	「タヤけ こやけ」 ・フレーズを意識した斉唱 ・高音の発声を意識して「マ」で歌う	「モーニング・チャチャチャ」 ・楽曲の気分を感じ取りながら、手拍子を入れた斉唱 ・互いの歌声を聴くことを意識した部分二部合唱	「モーニング・チャチャチャ」 ・楽曲の気分を感じ取りながら、手拍子を入れた斉唱 ・互いの歌声を聴くことを意識した部分二部合唱

《第3学年 モジュール学習年間計画》

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
題材名 (時数)	すてきな声で (3)	こんにちは リコーダー (3)	楽ふとドレミ (3)	にっぽんのうた みんなのうた(1) (1)	せんりつと音色 (6)	くり返して 重ねて (4)	めざせ 楽器名人(1) (1)	にっぽんのうた みんなのうた(2) (1)	めざせ 楽器名人(2) (3)	世界の 歌めぐり(1) (3)	にっぽんのうた みんなのうた(3) (3)	世界の 歌めぐり(2) (2)	えんそうの くふう (3)	音楽の ききどころ (1)	森の音楽を つくろう (4)	みんなできつろう お別れ音楽会 (16)	気持ちを 合わせて (3)	
題材の目標	音色や旋律から、 曲想を感じ取り、歌 詞や旋律の流れを 生かした表現を工 夫し、呼吸や発音の 仕方に気を付けて 歌うことができる。	音色や旋律、問 と答えの仕組みか ら、リコーダーの演 奏のよさや面白さ を感じ取り、奏出 たり、味わって聴 いたりすることができる。	音階や調、強弱 から、楽曲の特 徴を感じ取り、人 調の楽譜に慣れ て演奏したりす ることができる。	リズムや拍の流 れから、日本の歌 のよさを感じ取り、楽 曲の特徴を生か して歌うことが できるようにす る。	反復・変化する旋 律や楽器の音色か ら、楽曲の表 れを感じ取り、曲 想を取り、互いの 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 楽器の特徴を捉 えて聴いたりす ることができる。	音の重なり、反復す るリズムから、楽 曲のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	旋律やリズム、 音の重なりから、 曲想を感じ取り、 曲想にふさわし い表現を工夫し、 呼吸や発音の仕 方に気を付けて、 歌うことができる。	歌詞や旋律か ら、楽曲の表 れを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	リコーダーの音 色や音の重なりか ら、楽曲のよさや 面白さを感じ取り、 曲想を感じ取り、 曲想にふさわし い表現を工夫し、 呼吸や発音の仕 方に気を付けて、 歌うことができる。	拍の流れや旋 律、リズムから、 日本や世界の音 楽のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音色やフレーズ、歌 詞の内容から、楽 曲のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	拍の流れや重 なり合う旋律か ら、楽曲の特 徴を感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	拍の流れや重 なり合う旋律か ら、楽曲の特 徴を感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	楽器の音色 や反復・変 化する旋律か ら、楽曲の特 徴を感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	問いと答えの 仕組みや楽器の 音色、速変や強弱 を感じ取り、楽 曲のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音色や強弱、音の 重なりから曲想 を感じ取り、楽 曲のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	これまでの学習 を生かして、友達 と音に合わせて歌 うことができる。	
モジュール学習で 扱う要素や仕組み	音色	問いと答え	音色 強弱	リズム	音色 強弱 反復・変化	リズム 音の重なり	旋律	旋律	旋律 音の重なり	リズム 拍の流れ	強弱 音色 フレーズ	旋律 音の重なり	音の重なり 問いと答え	反復・変化	強弱 問いと答え	強弱 音の重なり	強弱 音の重なり	
モジ ュール 学習	音楽遊 び	リコーダー模奏 ・ソラシを使っ て	リズム打ち ・さまざまな 強弱で	「茶つき」 ・拍の流れにの って手遊び	リズム打ち ・さまざまな強 弱 ・強さを変えて 反復	リズム打ち ・異なるリズム を重ねる	リコーダー模奏 ・ソラシを使 って	リコーダー模奏 ・ソラシを使 って	リコーダー模奏 ・ソラシを使 って	「十五夜さん のもちつき」 ・拍の流れに って手遊び	リズム打ち ・さまざまな強 弱 ・フレーズのま まりを意識し て	リズム打ち ・異なるリズ ムを重ねる	リズム打ち ・異なるリズ ムを重ねたり 答えたりする	リズム打ち ・異なるリズ ムを、強弱を 変えて答える	リズム打ち ・異なるリズ ムを、強弱を 変えて答える	リズム打ち ・異なるリズ ムを、強弱を 変えて重ねる	リズム打ち ・異なるリズ ムを、強弱を 変えて重ねる	
歌 声 づ く り	「この山光る」 ・姿勢の確認 ・フレーズのま まりを意識し た斉唱	「この山光る」 ・姿勢の確認 ・高い声の響き を意識した斉唱	「この山光る」 ・姿勢の確認 ・高い声の響き を意識した斉唱	「この山光る」 ・姿勢の確認 ・高い声の響き を意識した斉唱	「この山光る」 ・姿勢の確認 ・高い声の響き を意識した斉唱	「この山光る」 ・姿勢の確認 ・高い声の響き を意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱	「ふじ山」 ・呼吸や発音を 意識した斉唱

《第4学年 モジュール学習年間計画》

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
題材名 (時数)	にっぽんのうた みんなのうた(1) (4)	ひびけ歌声 (4)	ひょうしと せんりつ (4)	にっぽんのうた みんなのうた(2) (2)	めざせ楽器名人 (1)	かけ合いと 重なり (2)	音階から 音楽をつくら う (4)	せんりつと音色 (4)	にっぽんのうた みんなのうた(3) (2)	日本のリズム・世 界のリズム (6)	えんそうの くふう (8)	みんなできつろう お別れ音楽会 (16)	音楽のききど ろ (1)	気持ちを 合わせて (2)				
題材の目標	音色や旋律から、日 本の音楽の雰囲気 を感じ取り、歌詞 の表し方を工夫し て歌ったり、声 を合ったり、表 現したり、聴いたり することができる。	いろいろな歌声の音 色やリズム、響き合 わせたり、声 を合ったり、表 現したり、聴いたり することができる。	拍の流れ、旋律、強 弱から、拍子の特 徴を感じ取り、楽 曲のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	旋律やフレーズか ら、楽曲のよさ を感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音色や音の重なりか ら、楽曲の特 徴を感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音の重なり、問 と答えや反復の仕 組みから、旋 律の掛け合い や、拍子の特 徴を感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音の重なり、問 と答えや反復の仕 組みから、旋 律の掛け合い や、拍子の特 徴を感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音の重なり、問 と答えや反復の仕 組みから、旋 律の掛け合い や、拍子の特 徴を感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音の重なり、問 と答えや反復の仕 組みから、旋 律の掛け合い や、拍子の特 徴を感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	歌詞の内容や音色、 反復するリズムや 楽器の音色から、 日本や世界の音 楽のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音の重なりや強 弱の仕組みや 音色や強弱、音 の重なりから曲 想を感じ取り、 楽曲のよさや 面白さを感じ 取り、曲想を 感じて歌ったり 演奏したり、楽 曲のよさを味 わつて聴いたり することができる。	音色や強弱、音の 重なりから曲想 を感じ取り、楽 曲のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音色や強弱、音の 重なりから曲想 を感じ取り、楽 曲のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音色や強弱、音の 重なりから曲想 を感じ取り、楽 曲のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音色や強弱、音の 重なりから曲想 を感じ取り、楽 曲のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。	音色や強弱、音の 重なりから曲想 を感じ取り、楽 曲のよさや面白 さを感じ取り、曲 想を感じ取り、互 いの歌声や楽 器の音を聴き合 わせて歌ったり、 演奏したり、楽 曲のよさを味わ つて聴いたりす ることができる。		
モジュール学習で 扱う要素や仕組み	音色 旋律	音色 旋律	旋律 強弱 拍の流れ	旋律 旋律 強弱	音色	音の重なり	音階や調 反復	音色 旋律	音色 音の重なり	音色 リズム 反復	強弱 音の重なり 問いと答え	強弱 音の重なり	旋律	音色 音の重なり				
モジ ュール 学習	音楽遊 び	リズム打ち ・4拍子8拍 ・3拍子6拍	リコーダー模奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー模奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	リコーダー演奏 ・さまざまな 種類の音階 を使って	
歌 声 づ く り	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認	「さくら さくら」 ・姿勢の確認 ・口形の確認
「はじめの歩	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱	「はじめの歩」 ・声の響きを意 識した斉唱

資料2 3・4年モジュール学習の計画

新山王 政和 ・ 市江 真理子 ・ 小出 真規子 ・ 長岡 知里

《第5学年 モジュール学習年間計画》

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
題材名 (時数)	につぼんのうた みんなのうた(1) (3)	音の重なりとひびき (4)	アンサンブルの みりよく (6)	「山の生活」のうた ひびき合いを生かして(2)	につぼんのうた みんなのうた(2) (3)	日本の音楽・世界の音楽 (5)	インターロッキング の音楽をつくろう (3)	気持ちを合わせて (4)	音楽のききどころ (2)	みんなでつくろう お別れ音楽会 (16)	音楽に思いをこめて につぼんのうた みんなのうた(3) (2)
題材の目標	旋律やリズムの特徴から、楽曲のよさを感じ取り、歌詞の表情や情景を想像して歌うことができるようにする。	音の重なりや和声の響き、音階や調から、和音や低音が旋律と重なる響きの面白さや美しさを感じ取り、声や音を合わせて表現することができるようにする。	音色の変化から、声や音の組み合わせによる響きの面白さや美しさを感じ取り、曲想を感じ取り、掛け合いの面白さや音の重なりや美しさを生かして演奏することができるようにする。	曲想に合った表現工夫して「山の生活」を盛り上げようとしていくことができるようにする。	旋律や強弱の特徴から、楽曲のよさや美しさを感じ取り、情景を想像しながら響きを生かして表現したり、聴いたりすることができるようにする。	音色や旋律、音階や調から、日本の民謡や子もり歌、世界の音楽のよさや面白さを感じ取り、音楽の特徴を生かして表現したり、聴いたりすることができるようにする。	合わせ方を工夫して音楽づくりをしたり、聴いて楽しむことができるようにする。	音の重なりや和声の響き、音楽の縦と横の関係から、曲のよさや響きを感じ取り、互いの音を聴き合い、心を合わせて表現することができるようにする。	反復問と答え、速動から、曲想やその変化を感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くことができるようにする。	音の重なりや和声の響き、音楽の縦と横の関係から、曲想を感じ取り、歌詞の内容を生かして表譜が歌うことができるようにする。	旋律、音の重なりや和声の響きから曲想を感じ取り、歌詞の内容を生かして表譜が歌うことができるようにする。
モジュール学習で扱う要素や仕組み	音色 旋律 拍の流れ	音色 音の重なりや和声の響き	音色 強弱 音の重なりや和声の響き	拍の流れやフレーズ 音楽の縦と横の関係	音色 強弱 旋律	音色 旋律 音階や調	リズム 反復 音楽の縦と横の関係	音楽の縦と横の関係 音の重なりや和声の響き	音色 旋律	音の重なりや和声の響き	音色 強弱 旋律
モジュール学習	音楽遊び	リコーダー模奏 ・サミング				リコーダー演奏 ・日本の音階 ・ふしづくり	「クラップ フレンズ」 ・速さを変えて ・強弱を変えて ・重ね方を変えて				
	歌声づくり	「心から心へ」 ・姿勢の確認 ・口形の確認 ・息の流し方の確認	・息を流す ・リップロール ・母音唱 ・息の使い方や母音の響きを意識した歌詞唱			「心から心へ」 ・息を流す ・リップロール ・母音唱 ・息の使い方や母音の響きを意識した歌詞唱		「心から心へ」 ・息を流す ・リップロール ・母音唱 ・息の使い方や母音の響きを意識した歌詞唱	・発表曲より抽出		「心から心へ」 ・息を流す ・リップロール ・母音唱 ・息の使い方や母音の響きを意識した歌詞唱
			「花のおくりもの」 ・声の響きを合わせた輪唱		「赤とんぼ」 ・歌詞に合った柔らかい声を意識した斉唱	「まっかな秋」 ・歌詞に合った柔らかい声を意識した斉唱		「君をのせて」 ・声の重なりや響きを意識した二部合唱			「冬げしき」 ・フレーズのまとまりを生かした斉唱

《第6学年 モジュール学習年間計画》

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
題材名 (時数)	につぼんのうた みんなのうた(1) (2)	音の重なりとひびき (3)	ひびき合いを生かして (7)	演奏のみりよく (3)	につぼんのうた みんなのうた(2) (2)	音楽のききどころ (2)	ドローンをもとに 音を組み合わせて 音楽をつくろう (4)	豊かな表現を求めて (5)	私たちの国の音楽 (4)	みんなでつくろう お別れ音楽会 (16)	音楽に思いをこめて (2)
題材の目標	旋律やフレーズのまとまりから、楽曲のよさや美しさを感じ取り、歌詞の内容や曲想を生かして歌うことができるようにする。	音階や調の変化、音の重なりや和声の響きから、楽曲のよさや美しさを感じ取り、曲想を生かした表現工夫し、各声部の音や全体的な響きに気を付けて、表現したり、聴いたりすることができるようにする。	音の重なりや和声の響き、反復や強弱、フレーズによる曲想の変化を感じ取り、楽曲の構造から、旋律の特徴を感じ取り、情景を想像しながら、歌や歌い方を付けて歌うことができるようにする。	速動や強弱、フレーズによる曲想のイメージを感じ取り、楽曲の構造から、旋律の特徴を感じ取り、情景を想像しながら、歌や歌い方を付けて歌うことができるようにする。	音色やフレーズのまとまりから、音楽の縦と横の関係や反復、音階や調から、楽曲のよさや美しさを感じ取り、情景を想像しながら、歌や歌い方を付けて歌うことができるようにする。	音楽の縦と横の関係や反復、音階や調から、楽曲のよさや美しさを感じ取り、楽曲の特徴に着目して聴くことができるようにする。	リズムの特徴や反復、音楽の縦と横の関係から、楽曲のよさや美しさを感じ取り、楽曲の構造に着目して聴くことができるようにする。	特徴あるリズムや問と答え、音色や旋律、反動から日本の伝統音楽の縦と横の関係から、楽曲のよさや美しさを感じ取り、歌詞の内容や曲想を生かして表譜が歌うことができるようにする。	音の重なりや和声の響き、音楽の縦と横の関係から、曲想を感じ取り、歌詞の内容を生かして表譜が歌うことができるようにする。	速動や強弱、音の重なりや和声の響きから、曲想を感じ取り、歌詞の内容を生かして表譜が歌うことができるようにする。	
モジュール学習で扱う要素や仕組み	音色 旋律 フレーズ	強弱 音階や調 音の重なりや和声の響き	反復 音の重なりや和声の響き	音色 強弱 フレーズ	音色 強弱 旋律	反復 音楽の縦と横の関係	リズム 反復 音楽の縦と横の関係	音楽の縦と横の関係 音の重なりや和声の響き	音色 旋律	音の重なりや和声の響き	音色 強弱 旋律
モジュール学習	音楽遊び	リコーダー模奏 ・井ソを含む ・ハ長調とイ短調の響きの違い	リコーダー模奏 ・サミング				・リズムアンサンブル		リコーダー演奏 ・日本の音階 ・ふしづくり		
	歌声づくり	「つばさをください」 ・姿勢の確認 ・口形の確認 ・息の流し方の確認	・息を流す ・リップロール ・母音唱 ・息の使い方や母音の響きを意識した二部合唱		「つばさをください」 ・息を流す ・リップロール ・母音唱 ・息の使い方や母音の響きを意識した二部合唱			「つばさをください」 ・息の使い方や母音の響きを意識した二部合唱	・発表曲より抽出		「つばさをください」 ・息の使い方や母音の響きを意識した二部合唱
			「ロック マイソウル」 ・声の重なりを意識した合唱	「語り合おう」 ・演奏形態を工夫した合唱奏	「われは海の子」 ・フレーズのまとまりを生かした斉唱			「ふるさと」 ・声の重なりや響きを意識した二部合唱 ・声の重なりや響きを意識した二重唱			「ふるさと」 ・声の重なりや響きを意識したアカペラ